授業科目	日本語教育方法論Ⅰ					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	1	開講時期	前期
担当教員	清水　順子						
授業概要	近年日本語教師を取り巻く環境は著しく変化し、日本語教育は社会全体の課題になっている。本授業では、多様な日本語教育において歴史から現状を理解し、日本語を学ぶ人や社会のニーズについて考える。さらに、そのような中で日本語教師の役割とは何かを考える。具体的には、日本語教育と結びつく理論や文法、日本語の諸相、評価について講義を通して実践的に学ぶ。						
授業形態	講義			授業方法	PBL・ディベート GoogleClassroom を活用し、双方向型の授業を行う。		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1. 日本語教育の歴史を踏まえ、現在の多様な日本語教育について理解できる。 2. 日本語教育と第二言語習得の理論がどのように結びついているかを理解できる。 3. 日本語教育のための文法の考え方に基づき、文法を説明できる。 4. 評価の方法や評価の要素について説明できる。
理想的レベル	学んだことを、自分のことばで他の人に分かりやすく説明できる。

評価方法・評価割合		
評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト		
レポート	50%	
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物		
その他	50%	授業への参加度、提出物

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	-	DP3	○	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	-

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
予習：該当部分の予習を行う。 復習：授業で学んだことが、実社会でどのように行われているか、新聞ニュース等で調査し、まとめる。	4

授業計画	
第 1 回	オリエンテーション 授業の概要を説明し、履修方法や授業の目的、達成目安、評価の内容と方法を理解する。
第 2 回	日本語教育の歴史と背景 1 プレタスク 言語政策と外国語教育 第二次世界大戦までの日本語教育

第 3 回	日本語教育の歴史と背景２ 第二次世界大戦後の日本語教育 留学生への日本語教育 生活者への日本語教育 ポストタスク
第 4 回	日本語学習者の現状と問題１ プレタスク 海外における日本語学習者
第 5 回	日本語学習者の現状と問題２ 国内における日本語学習者 ポストタスク
第 6 回	日本語教師の現状と課題１ プレタスク 日本語母語話者教師と非母語話者教師 日本語教師の専門性
第 7 回	日本語教師の現状と課題２ 日本語教師のこれまでとこれから 日本語教育人材に求められる資質能力 ポストタスク
第 8 回	第二言語習得と日本語教育１ プレタスク 学習者言語の特徴 母語の影響 動機づけ 学習者要因
第 9 回	第二言語習得と日本語教育 2 教室指導 言語学習のメカニズム 教授法①
第 10 回	第二言語習得と日本語教育 3 教授法② ポストタスク
第 11 回	日本語を教えるための文法１ プレタスク 教授法の変化と文法教育への関わり 日本語教育文法
第 12 回	日本語を教えるための文法 2 初級文法 中上級文法 ポストタスク
第 13 回	評価１

	プレタスク 言語教育と評価 テストの種類 テストの基本概念
第 14 回	評価２ CEFR 自己評価 ポートフォリオ評価 ポストタスク
第 15 回	総括 授業のまとめを行い、レポート課題について確認する。
テキスト	遠藤織枝(2020)『新　日本語教育を学ぶーなぜ、なにを、どう教えるかー』三修社
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	授業中に指示する。
課題に対するフィードバックの方法	提出物はコメントを付けて返却します。
学生へのメッセージ・コメント	1. 積極的な参加を重視します。 2. 正当な理由があり欠席・遅刻・早退する／した場合は、必ず届け出ておくこと。 3. これまでの自身の外国語学習を振り返り、日本語を第二言語として教える視点を養ってください。